



BLUE BIRD

学校だより 第1号

令和7年4月7日発行
東京都立青鳥特別支援学校
校長 高橋 馨

歴史ある学校で 新しいことを

校長 高橋 馨

4月になってからも真冬のような寒さが続きました。ですが、そのおかげで例年よりも長く、桜を楽しむことができましたように感じます。そして桜の花びらが舞う中、始業式を迎えました。三軒茶屋校舎で3年目となる令和7年度が始まりました。職能開発科は、3学年がそろそろ完成年度となります。8日の入学式では、普通科54名、職能開発科20名の新入生を迎えます。全学年を合わせると普通科は143名、職能開発科は59名となります。また、三軒茶屋の本校から南に300kmほど離れた八丈島の分教室では、八丈高校との合同始業式が行われました。進級した3名の生徒が頑張っています。『2科1分教室』の全校合わせて205名の生徒一人一人が、それぞれの目標に向かって新たな一歩を踏み出しました。新しいことへの挑戦が始まります。

さて、3月末に『東京都特別支援教育推進計画(第二期)第三次実施計画』と『東京都教育施策大綱』がそれぞれ策定・公表されました。教育施策大綱は東京都が進める教育の基本方針であり、推進計画は障害のある幼児・児童・生徒の自立と社会参加を目指し、共生社会の実現に向け進めているものです。時代の変化や社会のニーズに合わせて東京都が示すこうした方針や計画を踏まえ、本校も取り組みを進めてまいります。例えば教育施策大綱に「特に重要で優先的に取り組む事項」として「インクルーシブな教育の推進」が示されています。推進計画には「特別支援学校と都立高校との協働的な取組等を推進」の記載があります。これにより、分教室と八丈高校は島しょ地域の実施校として指定されました。八丈高校=分教室+本校の連携をさらに強め、双方の生産品の活用・販売を通じた新たな協働活動の創出・展開に取り組む準備を進めています。また、『変化・進展する社会に対応した特別支援教育の推進』として示されている「デジタルを活用した教育活動の展開」や、「障害者アートの理解促進」につながる取り組みでもある「芸術大学と連携したデジタル表現による芸術教育」推進校の指定も受けました。本校で、美術大学と連携した授業研究が始まります。同様に、推進計画にある「職業教育の充実」に向けた取り組みとして、全教員による作業学習(普)・専門教科(職)をテーマとした研究・研修活動も準備を進めています。この他にも知的障害特別支援学校に直接かかわる内容として「学校と放課後デイサービスの連携」や「知的障害特別支援学校の高層化」等が記されています。『教育施策大綱』『特別支援教育推進計画』は、それぞれ概要版や子供版(推進計画)も用意されています。少し先の未来を想像するツールとして是非ご覧ください。

東京都教育施策大綱(概要版) https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/kyoiku/01-1_taikougaiyou2
特別支援教育推進計画 https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/basic/plan/special_needs_school/practice_plan2_3

どこよりも長い歴史があり、初めてのことに挑戦し続けてきた本校だからこそできる。そのような思いと共に、引き続き『優しく』を全ての取組の基本姿勢として、「心を込めて、丁寧に」そして「伝える、伝わる、つながる」ことを大切にしながら、新しいことへの取り組みも努めてまいります。保護者、そして地域、関係機関の皆様、令和7年度も本校の教育活動へのご理解とご支援・ご協力をお願いいたします



※開発中の「ピッピのクッキー」